

Title	Factbaseを活用したドナルド・トランプのカードメタ ファーの分析 : 2019年の経済と米墨国境に対するト ランプの手札とは
Author(s)	友繁, 有輝
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2020, 2019, p. 59-69
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/77041
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

# Factbase を活用したドナルド・トランプのカードメタファーの分析 —2019 年の経済と米墨国境に対するトランプの手札とは—

# 博士後期課程3 友繁有輝

#### 1. はじめに

ドナルド・トランプが大統領に就任してはや4年。世界はトランプのエゴ・セントリックな発言に翻弄され続け、もはや米国大統領の身勝手さは皮肉にもグローバルに広がってしまった。その結果が、歴代大統領3人目となる弾劾¹裁判だ。そもそもこの裁判は、トランプがウクライナ大統領、ゼレンスキーにロシアからの攻撃を守備するための軍事費―米国国民の税金―と引き換えに民主党のジョー・バイデンの息子の汚職を調査するという"quid pro quo"(見返り)を持ちかけたことが発端である。トランプのこうした外交政策は、娘婿のジャレッド・クシュナーが指摘するように、「ビジネスマン²」としてのそれであり、目的の達成のためならば手段を選ばない。周知の通り、それは態度のみならず言葉の端々に散見されるため、メディアは声を揃えて大統領のツイートやテレビでの発言を批判している。共通認識としては、彼の自己中心性による権力の乱用だろう。さて、本稿は大統領のカードメタファーの中に権力がいかにして顕在しているのかという点を、Factbase に収録されている大統領のインタビューから、特に経済及び移民問題への影響を鑑みて、メタファー使用の社会的背景を考察することが狙いである。

# 2. 政治とゲーム

政治とゲームは一見かけ離れたものに見えるが、米国では政治が (カード) ゲームやスポーツ に喩えられることが少なくない (Ching 1993)。 最近筆者が遭遇した例だと、2020 年 2 月 10 日の Time 誌の米国とイランの関係性について書かれた *Trump's Middle East plan acknowledges Israel's primacy* という記事が挙げられる。(下線部筆者。以下同じ。)

(1) The Trump team is wagering that more geopolitical honesty will change the game in the region. (Time)

米国とイランの対立は、今に始まったわけではなく、歴史的な対立を紐解いていくとなぜ現代社会においても因縁の関係が根深く残っているのかがわかる。高橋 (2019) によると、両国が自国の非を認めず、被害者意識³を強く持っているからだと分析している。ともあれ、この政治的ゲームの解決の糸口は、"geopolitical honesty"だと Time 誌の記者は述べている。

ところで、このメタファーは現実世界に限られたものではなく、米国文化の一部となっている点も見逃せない。というのも米国のノンフィクションドラマの中でもカードのメタファーが散見されるからだ。筆者は、Netflix のオリジナルドラマ Designated survivor (指定生存者) のシーズン1を視聴した際に、外交面でカードのメタファーが使用されているのを偶然発見した。

<sup>1</sup> ①大統領が、反逆罪、収賄罪、あるいはその他の重罪及び軽罪を犯した疑いがある時、司法省あるいは独立検察官が調査して、下院の司法委員会に報告する。②下院の司法委員会が証拠を吟味し、弾劾に匹敵するかどうか討論する。③司法委員会が弾劾を薦める決断を下したら、次は下院全体で討論を行い、採決する。④下院では過半数の賛同で弾劾決議になる。⑤次に上院で弾劾裁判が行われる。⑥上院での弾劾裁判では、出席者の3分の2が賛同すれば、大統領は有罪になり、罷免される。これまでに弾劾された大統領はアンドリュー・ジョンソンとビル・クリントン。リチャード・ニクソンはプロセスの②の段階で辞任(渡辺 2020: 344-345)。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> Trump's astonishingly successful campaign was driven by four interconnected motifs—the shrewd business executive who cloud swing beneficial "deals", the political outsider beholden to no special interests, the ultra-nationalist prepared to restore American "greatness", the strong leader able to defeat all threats and enemies and "get things done" where others had failed (Boggs 2018: 161).

<sup>&</sup>lt;sup>3</sup> イラン側は、アメリカやイギリスが民主的に選ばれたイランのモサデグ首相をクーデターで倒したことに対して、アメリカ側は 1979 年 11 月にテヘランのアメリカ大使館が学生に占拠され、大使館員が人質になるという事件に対して被害者意識を持っている (高橋 2019: 90-91)。

<sup>4</sup> キーファー・サザーランド主演のテレビ・ドラマ『サバイバー:宿命の大統領』は大統領選挙たけなわの 2016 年9月に始まった。連邦議会議事堂がテロで破壊され、一般教書演説中だった大統領をはじめ、副大統領、下院議

(2) President: I...I don't know how to potentially sacrifice 100, 000 people to save 15. I...I don't know how to do that.

Advisor: Well, you know there is a diplomatic option to get them out. You buy them.

President: We don't negotiate with terrorists. I agree with the policy.

Advisor: Well, there are other cards to play.

このように、米国の政治ではカードのメタファーが駆使されていることは何も不思議なことではない。だが、問題はどのような社会的背景・文脈の中で、トランプがこのメタファーを用いてきたのか、ということである。次節ではまずこのメタファーの辞書的意味から確認していきたい。

# 3. カードメタファー (イディオム) の意味比較

基本的な "card (s)" が使用されるイディオムの意味について、3 つの辞書 (The Kenkyusha-Longman Dictionary of English Idioms (KLDE), Allen's Dictionary of English Phrases (ADEP), The Penguin Dictionary of English Idioms (PDEI))を比較し、それぞれの定義を下記にまとめた。

表 1 カードメタファーの意味比較

長、主要閣僚が死亡する。大統領継承権を持つ者の一人だけを「指定生存者」として待機させる定めにより、主人公の住宅都市開発長官だけが生き残る。彼が大統領として苦戦するドラマである。ホワイトハウスや連邦議会議事堂が破壊される設定は、アメリカの民主主義が脆弱になっている現実を投影していよう (村田 2019: 202)。

このようにカードのイディオムは数多くあるが、後に詳述するように、トランプは、 "I (we) have (all) the cards" (have+(all) the cards)を駆使する傾向がある。この用法は、表 1 の "hold all the cards" と同義だと考えられ、ADEP の定義に従えば、「資源や利点を全て持っていること」となり、カードゲームで勝利するために全ての手札が必要であることに由来している。第 4 節からは、彼が実際にどのようなカードで "プレイ" するのかを Factbase から突き止めていきたい。

## 4. Factbase とデータ

ドナルド・トランプのこれまでの発言は Factbase (https://factba.se) に収録されていて、日々更新されている。(2020年2月5日現時点では、トータルで9,326,340語数を収録) なお、その中にはスピーチ、ツイート (トランプが削除したツイート (757例))、インタビューなども含まれる。これらのデータの中から、検索箇所に "card(s)" を入力すると、367例検出された。このデータは、多岐に渡るメディアから採取されたもので、テクスト、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)、ビデオに分類される。367例うち、メディア (33例)、ソーシャル (76例)、ビデオ (258例)という結果である。これらのデータのジャンルをまとめると、中国 (40例)、アメリカ (14例)、大統領 (8例)、日本 (8例)、イラン (8例)、オバマ (13例)、ヒラリー (8例)、 @Macys (6例)、 @realDonaldTrump (6例)となる。

本稿は紙幅の都合上、全てのメディアタイプを網羅することはできないため、インタビューに限定することにしたい。インタビュー中の"card"の使用は全部で 105 例あるが、ジャンルを観察すると、中国  $(11 \, \text{例})$ 、インド  $(5 \, \text{例})$ 、メキシコ  $(4 \, \text{例})$ 、イラン  $(4 \, \text{M})$ 、日本  $(3 \, \text{M})$ 、ヒラリー  $(4 \, \text{M})$ 、その他  $(4 \, \text{M})$  が含まれる。

インタビューの中では、主語に I(we) と they が入る用法に分類される。自分たちを善とみなし、彼ら (they) を悪とみなす手法 (Van Dijk 2006) は、自分たちの立場を有利にするための常套手段であり、さらなる分裂を生み出す。さて、トランプはどのようにその対立の世界観を構築しているのか。本稿は、メタファー "I(we) have (all) the cards" が使用されている 2019 年のインタビューから、そのメタファーの文脈から主に社会的背景 (経済と移民) を考察する。

#### 5. カードメタファー

## 5.1 コンテクスト

本稿は、2019 年のインタビュー "Interview: Piers Morgan of iTV's Good Morning Britain Interviews Donald Trump – June 4, 2019"を取り上げて考察する。



画像 1 Interview: Piers Morgan of iTV's Good Morning Britain Interviews Donald Trump (左:トランプ 右:モーガン)

Piers Morgan (モーガン) とのインタビューのトピック $^5$ の中でカードのメタファーが応用されているのは、"Trump on 2020 election"の箇所である。その文脈を下記に掲示する。

-

<sup>&</sup>lt;sup>5</sup> "Trump on meeting the queen" "Trump on duchess of Sussex" "Trump on climate change" "Trump on Churchill" "Trump

Piers Morgan: Most presidents, who are incumbent presidents, who run again on a good economy get re-elected. Are you confident of winning and do you see anybody, Joe Biden is the clear favorite front runner on the Democrat side, do you see any Democrat that you think potentially might cause you problems and beat you?

Donald Trump: So I'm running on maybe the greatest economy we've ever had. I'm in the midst of a couple of trade negotiations, which I think are going to work out very successfully because we have the cards, I have all the cards, you know with the piggy bank, with a bank that everyone wants to steal from and rob, and when you have that, you have the cards.

Donald Trump: And I do have the cards and I have the cards on Mexico, cleaning up the country, their country so that we don't have the onslaught of millions of people trying to rush our border. So we have a lot of things that I'm working on. They're good things I didn't have to work on and I could have been...

モーガンの質問内容は、2020年の大統領選に向けて勝つ自信があるかどうか、また民主党の有力候補でジョー・バイデンのような人物がいるが、他の強敵はいるかどうかを尋ねたものである。それに対して経済状況が良い中で、トランプはいくつかの貿易交渉の最中であることを述べ、それが成功するはずだと語っている。その文脈で、下線部で示されているように、トランプは皆が欲しがる"piggy bank"を所持していることに加え、米墨国境に対する手札も持ち合わせていると主張している。その関係性を図示すると下記のようになる。

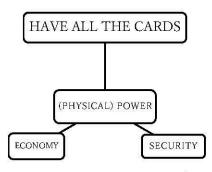


図1 カードメタファーと権力

図 1 が示唆することは、カードのメタファーは、言葉の使用に限られるものではなく、社会の中で実際に実践されるということである。ADEP でも確認したように、 "hold (have) all the cards"とは、「資源や利点を持っていること」という意味であった。インタビューでは、その権力が経済にはたらきかけること、さらに、物理的な力として米墨国境に壁を建設する事などに対して用いられることを顕示している。こういった大統領の権力の行使に対する批判が多い中、どのくらいのアメリカ国民はこの意見に賛同しているのか。

ギャラップ (Gallup) の調査では、2019 年 6 月の時点では、約 40%の人がトランプを支持して、2020 年 2 月現時点では約 50%である。トランプの言葉は、たとえそれが事実であろうとなかろうと、約半数のアメリカ国民の支持を得ていることを示唆している。支持者の層はラストベルトの「取り残された人々」はいうまでもなく、トランプが誇る「男らしさ」がジェネレーション Xの人々を惹きつける一つの理由でもある (Harp 2019)。それは、"a masculinity that is marked by being big, strong, possessing, sexual prowess" (生殖能力、強さ、possessing, 大きいこと、によって示される

on former presidents" "Trump on Corbyn" "Trump on the NHS" "Trump on Tory leadership" "Trump on D-day" "Trump on not serving in the military" "Trump on LGBT in military" "Trump on Iran" "Trump on John McCain" "Trump on 2020 election" 「本稿では、「手札」とは比喩的に大統領が行使することのできる目下計画進行中の政策や過去に行われた政策のことを示している。

男らしさ)であり、2016年の大統領選の時に相手候補者の弱さ (男らしくないこと)を攻撃していた当時の趨勢にも表れている (Harp 2019)。

故に、一般的に彼の言葉は自分の強さや力を誇示するためものであると考えられ、そうすると、カードのメタファーも、自分に権力や主導権があること主張する機能がある。重要なことは、実質的なデータに加え、トランプの世界観に共感する人が一定数いるということであり、彼のメタファーは効力を持つことになる。言葉と社会は密接に関与し、メタファーを分析するには、その背景を知ることが、次節ではそのメタファーの社会的背景(経済・移民)について論じていく。

# 5.2 社会的背景

## 5.2.1 豚の貯金箱メタファー

インタビューの中では、"piggy bank" がメタファーとして用いられているが、Factbase で "piggy bank" を検索してみると、全部で 44 例見つかり、このメタファーと関連するトピックは、中国 (11 例)、米国 (9 例)、メキシコ (6 例)、EU (3 例)、大統領 (3 例)、奪うこと (5 例)、カナダ (2 例)、ヨーロッパ (2 例)、その他 (3 例) となる。その中で、2019 年 6 月に行われた表 2 に掲載したインタビュー以外の文脈及び要旨を下記の表にまとめた。

表 3 豚の貯金箱メタファーが使用されている 2019 年 6 月のインタビュー (Factbase)

インタビュー	文脈	要旨
Interview: Donald Trump Calls in to Fox Business' Mornings With Maria - June 26, 2019	We are the big, fat piggy bank. We are the piggy bank, but we won't be the piggy bank forever because frankly, you know, you can only give so much.	米国が世界経済の供給源になっているが、その状況を継続する意図がないことを示唆。
Interview: Donald Trump Dials In to CNBC's 'Squawk Box' for a Phone Interview - June 10, 2019	Now, people haven't used tariffs, but tariffs are a beautiful thing when you're the piggy bank, when you have all the money	米国が世界経済の中心であることを前提に、関税対策が効果的だと伝達する機能。
Interview: Donald Trump Dials In to CNBC's 'Squawk Box' for a Phone Interview - June 10, 2019	People want our goods they want our money. We're the piggy bank.	世界が米国の商品を必要としているため、米国が経済の供給源であることを顕示。
Interview: Laura Ingraham Interviews Donald Trump on Fox News in France - June 6, 2019	When you're the piggy bank that everybody steals and robs from and they deceive you and they like they've been doing for 25 years, tariffs are a beautiful thing. It's a beautiful word if you know how to use them properly.	世界経済の中心に位置していれば、他国から騙され、資金を吸い取られ続けることを懸念した内容。関税が得策だと主張。

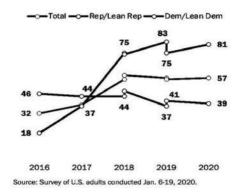
そもそも "piggy bank" とは何か。Oxford English Dictionary (OED) の辞意は "A money box, esp. one shaped like a pig; (figurative) savings, any supply of money" である。つまり、字義として貯金箱 (特に豚の貯金箱) を表し、隠喩として貯金、あるいはお金の供給量の事を顕示している。また、English Language & Usage Stack Exchange によると、何かの支払いの時に手持ちに十分な資金がない場合、大人 (両親) が子供の豚の貯金箱から一時的に借りることを含意すると記述されている。その場合、ある時点で借りたお金は戻されるべきだが、場合によっては永久に返されないケースもあるという。別言すると、ドナルド・トランプは、他国が米国の資金を横取りする振る舞いを、まるで子供の豚の貯金箱からお金を借りることのように喩えている。

表 3 の 2019 年 6 月 26 日のインタビューでは、彼は"big, fat"という形容詞を用いて、豚が肥えていること、つまり、潤沢な資金源が米国にあることを示唆しているが、その様相は継続しな

い可能性を示唆し、そういった状況下では関税が得策だと豪語している。この思惑は、表 2 のコンテクストとも繋がり、「豚の貯金箱を持っていること」と「主導権を握っていること」が同義語のように利用されている。それゆえ、メタファー ("we have the cards", "I have all the cards") は、「トランプ側が経済面で有利な立場にある」ことをほのめかすものだと考えられる。

# 5.2.2 トランプ政権と経済

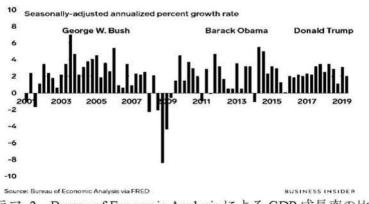
実際に経済状況はどれくらい良くなっているのか。ここでは、Pew Research Center (PRC) のデータをもとに、まず民主党と共和党の捉え方の差異を見ていきたい。次のデータは、党による支持率の違いである。



グラフ1 PRC による共和党と民主党の米国景気の見方

2016 年から 2020 年の間で、共和党内の支持率が高くなるのは、2018 年からであり、年々増加傾向にある。一方で民主党ではそれとは対照的に減少し続けており、オバマ政権時に景気が回復したという立場の人が多い。その中央に位置するデータは、共和党・民主党の両党を含むものであり、共和党支持者が全体のパーセンテージを引き上げていることが読み取れる。このデータはあくまでも景気に対する「見方」である。だが、実際に経済面に関しては、メディアも成長率を評価していることは認めざるを得ない。トランプが就任してから 1 年後の 2017 年時点における彼の実績をまとめた調査 (Gilboa 2017) は、"In one area — a very important area to him and to the public — he has succeeded greatly. The US economy is flourishing, showing mostly positive data: growth reached 2.4%, and industrial productivity went up about 3%. Wall street investments are up almost a third. At the same time, unemployment fell to 4.3% and inflation to 1.6%." と指摘している。すなわち、2017 年時点では全体的な経済成長が認められ、GDP は 2.4%、工業生産力は 3%、ウォール街への投資が 3 分の 1 近く増加、失業率は 4.3%減少したことが実績である。

加えて、2020 年 2 月 4 日の一般教書演説で大統領は "our economy is the best it has ever been"と 豪語している。だが、果たして"the best"と言えるのか。下記のグラフは、Markets Insider で示さ れていた 2001 年から 2019 年までの米国 GDP の成長率を示したものである。



グラフ 2 Bureau of Economic Analysis による GDP 成長率の比較

歴代大統領の George W. Bush (ブッシュ) と Barack Obama (オバマ) と比較すると経済状況は "the best" とは到底言えない。Markets Insider によると、経済回復は、オバマ大統領からの経引き継ぎによる成長率であると言われている。

これまでのデータは米国国内からの評価であるが、日本からの視点を確認するために、外務省の データを元に下記のデータを作成した。

# 表 4 米国経済状況 (外務省のデータを元に作成)

1 主要産業

工業全般,農林業 (小麦、トウモロコシ、大豆、木材他)、金融・保険、不動産業、サービス業

2 GDP

19 兆 3906 億ドル (名目 2017年)

3 一人当たり GDP

59,531 ドル (名目 2017年)

4 GDP 成長率

2.1 % (2019年)

5 消費者物価指数

0.2% (2018年4月対前月比)

6 失業率

3.7% (2019年)

7 貿易額 (2017年、財貨のみ)

(1) 輸出:1兆5,507億ドル (前年比+6.5%)(2) 輸入:2兆3,619億ドル (前年比+7.0%)

8 主要貿易品目

(1) 輸出:自動車部品、工業用機械、航空機、自動車、医療品 (2) 輸入:医療品、携帯電話及びその他生活雑貨、自動車部品

9 主要貿易相手国・地域 (2018年)

輸出:カナダ、メキシコ、中国、日本、英国 輸入:中国、メキシコ、カナダ、日本、ドイツ

10 通貨レート/ 為替レート

1 ドル=110.48円 (2018年5月23日)

表 4 から米国の主要産業から通貨レートに至るまで、様々な細かい情報を得ることができる。経済概況に関する外務省の 2019 年 6 月の内閣府月例経済報告によると、「アメリカでは、景気は着実に回復が続いている。先行きについては、着実に回復の見込みが続くと見込まれる。ただし、通商問題の動向及び影響、今後の政策の動向及び影響、金融資本市場の変動の影響等に留意する必要がある」と言及されている。以上の議論から、2019 年の米国経済状況は、トランプが自称する"the best"な状態ではないが、かといって景気が悪化したわけではない。それゆえ、トランプは誇張法によって、経済回復を強調していると結論づけられよう。

## 5.2.3 トランプ政権と移民7問題

トランプは経済面だけでなく、メキシコに対しても "cards" があると主張し、力関係がその国より上であることを含意している。彼は、ボーダー (メキシコの壁) に突進してくる人々に猛攻撃することがないようにする手札がある (I have the cards on Mexico, cleaning up the country) と言い放つ。表 2 の文脈では、"their" とはメキシコ国民 (不法移民) や麻薬密輸者を示すと考えられる。一般的に、不法移民は英語で、"undocumented people" と呼ばれ、移民に対してポジティブな見解の人は、"undocumented workers"、"undocumented immigrants" というようなマイルドで中立的な言

<sup>7</sup> アメリカはヨーロッパの君主制や宗教迫害から逃れてきた人々が建国した移民の国だというのはアメリカの建国神話となっている。この説明が事実に即しているかはともかくとして、ここで想定されている人は、今日の一般的な用語では、移民というより難民にあたる。一般的には、移民とは自発的な意思に基づいて移住してきた人を指しており、迫害などの理由により移住を強いられた人は難民と呼ばれる。アメリカが移民の国だという場合、典型例として想定されているのは、実は難民であることも多い(岡山 et al. 2019)。

<sup>&</sup>lt;sup>8</sup> メキシコ国境での麻薬戦争を元に脚色した映画『ボーダー・ライン』を視聴すると国境付近での凄まじい麻薬 戦争が繰り広げられていることがわかる。

葉を好んで使う (Garcia 2019)。他方、大統領やその支持者は、"criminals"、"drug dealers"、"illegal alien killers"を運用し、形容詞も "undesirable" "dangerous"、"impoverished"や "crazy" などを用いる (Garcia 2019)。このような認識があるため、トランプ政権では、そもそも移民問題の解決策には公平性は存在し得ない。その不公平さの中、彼は移民に対してこれまでどのような政策を実際に施したのか。

東京財団政策研究所 ((https://www.tkfd.or.jp) によると、まず難民申請において、トランプ政権は受け入れ人数を削減している。さらに、亡命申請においては、「2019年7月15日司法省と国土安全保証省は南部国境を超えて入国した者による亡命申請を、その者が先に第三国で保護の申請をしなければ認めないとする規則を発表」した。強制送還手続きにおいては、「国土安全保証省はグリーン・カード申請手続きを変更し、申請書に不備がある場合に申請書をそのまま却下できるとした。申請が却下された場合、申請者は強制送還の手続きをとる」という流れとなっている。このような移民対策がある中で、特に批判を浴びた政策が、入国禁止令に関する大統領令である。トランプは2017年に、難民受け入れ事業を120日間停止し、イラク、イラン、リビア、シリア、ソマリア、スーダン、イエメンの国民の国民を90日間禁止する大統領令に署名をした。空港では多くの人が立ち往生になり、行く場を失った人を報道するニュースは記憶に新しい。この大統領の署名は、トランプ政権とファシズムを結びつける趨勢をさらに作り出すことになった。政権のナショナリズムに関して、Boggs (2018: 161) は"a fusion of ultra-nationalism and reactionary populism"(保守的ポピュリズムと超ナショナリズムの融合)だと指摘し、トランプを"demagogic, narcissistic, xenophobic, corporatist, charismatic"であると現状を喝破している。さて、こういった特性を持つ元不動産王は現在移民に対してどのような政策を思い描いているのか。

2020年2月4日の一般教書演説ではトランプはすでに移民法を修正し、国境警備を支援する新しい法案をすでに提出したことを明示した。今後の移民対策として4つの柱があるとトランプは主張する。第一に、子供の頃アメリカに連れてこられた180万人の不法移民に市民権を与えるというもの。第二に、国境警備の強化。第三に、くじでビザを与えるのをやめること。第四に、連鎖的な移民を食い止めることである。

表 2 の文脈からも判断できるが、特にトランプが強調するのは国境強化である。ボーダーセキュリティには、"air, land, and sea" という 3 つのキーワードがあり、特に強化している場所は、"Southwest land border with Mexico"である (Pierce 2019)。メキシコからの違法移民の検挙数は Southwest border という国境が一番多く、図  $2^9$  はその位置を示したものだ。

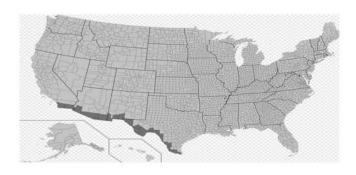
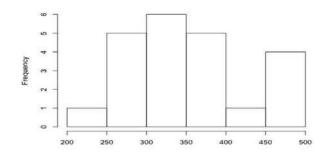


図 2 米墨国境 (Southwest border) の地図

国家安全保証省 (DHC) によると、そこでの検挙数は 2016 年 (190,760 人)、2017 年 (127,938 人)、 2018 年 (152,257 人)、 2019 年 (169,536 人) であり、その内 2016 年から 2019 年の間のその国境での死者数は、平均すると 302 人である。他の年と比較しやすくするため、下記にその米墨国境での死亡人数 (1998 年 $\sim$ 2019 年)を使用してヒストグラムを示す。

.

https://en.wikipedia.org/wiki/Mexico-United States border



グラフ 3 Southwest Border の違法移民死亡人数のヒストグラム (Official website of the Department of Homeland Security のデータを元に統計ソフト R による作成)

グラフ3 (横軸は階級、縦軸は度数)から、一年間に300~350人の人が一番多く死亡していることがわかる。トランプが就任してから4年間、その国境での違法移民の平均死亡人数は302人なので、頻度の一番多い箇所に位置していることになり、トランプが就任してから死亡率が増えたとは言えない。DHCのデータでは、違法移民の死亡人数は、2005年のG.W.ブッシュ大統領の時に最も高く、492人である。つまり、移民問題はもともと米国の社会問題として根深く、容易に解決できる問題ではない。こうした状況の中で、トランプは以下の対策を施しており、これらがいわゆるトランプの"cards"だと言える。

表 5 移民に対する政策 (Pierce (2019: 2) を元に作成)

# 1 National Guard Deployment to Border

2018年4月にトランプは、南国境に警備を配置するように司法省に命じる。

## 2 Zero-Tolerance Policy

司法省は、連邦検事に移民の犯罪の起訴を優先するように促す。

## 3 Family Separations

2018年5月7日に司法長官は、DHC は全ての不法に国境を越えた者を起訴することを言及。何千もの家族において子供を両親から引き離す。(2018年5月7日~6月20日)

## 4 Active-Duty Military Deployment to Border

2018年10月、大統領の要求で国防省は、米墨国境に5200人の現役軍を配置。2018年12月15日に締結予定であったが、1月まで引き伸ばされた令もある。

## 5 Increased Investigations into Family units

2019 年 4 月 29 日 に、米墨国境に前例のないほど移民の家族単位が増えたため、偽家族を見つけるため、DNA 鑑定を含む調査を開始。

## 6 Border Patrol Staffing Increases

2017 年 1 月の大統領令で、国境警備員を 5000 人追加するよう要請。2018 年末には、米 国議会によって承認された国境警備員は 2011 年会計年度と同じ 21370 人。2019 年会計年 度では、新たな国境警備員を 1200 名まで増やすことを議会は認可。(現在に至る)

## 7 Construction of Barriers along the Southern Border

2017、2018 年会計年度で、議会は南国境における壁の建設及び修理のため 168 億ドルを 充当。2019 年時点で、DHC は、34 マイルの取り替え用の壁とフェンスを建設。(現在に 至る)

このような対策をする中で、恐怖心による身体的、精神的苦痛を訴える移民も多くいることは無視できない (Fleming et al. 2019)。顕著なのは、彼らが "mixed- status" — 家族の中に他国の市民権を持つ者がいる (親が不法移民で子供が米国市民である) 一などの場合、行動が制限されることによるストレスである。表 5 の 3 にも示されているように、仮に不法に移民したことが発覚した時には、国に強制送還されることになる。そのような理由で、多くの人は外出すること (政府プログラム、医療、警察、社会事業)を避け、車に乗ることも公共の場で過ごすことも最小限に止めている (Fleming et al. 2019)。最悪の場合、外出を避けることが原因となり、飢餓につながるケースもあるという。

その他の問題点としては、移民拘留センターの劣悪な環境が挙げられる。たとえ不法移民を検挙したとしても、彼らの人権の問題、また収容スペースが限られていることなど、問題は後を絶たない。米国下院議員のアレクザンドリア・オカシオ=コルテス は、2019年7月2日に "These are concentration camps. According to concentration camp experts, people begin to die due to overcrowding, neglect, and shortage of resources." とツイートし、収容所のすし詰め状態、精神的・医療的なケアが十分に行われない状況、そして資源不足など、拘留センターの悲惨な環境を非難した。

以上のように、社会問題を解決するはずの移民対策によってさらに新たな争点や国民間 (民主党や共和党) の亀裂が生み出されるという悪循環に米国は陥っている。そのジレンマがある中ではなおさら「手札」の使用は細心の注意を払うことが求められるだろう。

## 6. 結語

本稿は、トランプのカードメタファーが権力といかに関連するのか、またそれがどのように使われているのかを明らかにするために、インタビューの文脈から、メタファー分析に不可欠な社会的背景を考察した。まず "card(s)" が用いられているイディオムを 3 つの辞書 KLDE、ADEP、PDEI を用いて整理した。

Factbase には、多岐にわたるメディアタイプ (インタビュー、SNS, 記者会見、スピーチ)が収録されているが、本稿はそのタイプの中のインタビューに限定し、2019 年 6 月 4 日のトランプとモーガンの対話の中で用いられているカードのメタファーを分析対象とした。なお、"I (we) have all the cards"という比喩表現は、相手よりも力関係が上であり、権力を行使できる主導権を握っていることを含意するが、インタビューの中ではそのメタファーは経済と米墨国境に対して使用されている。

トランプは、カードメタファーが使用されている文脈の中で、"piggy bank"のメタファーを使い、(他国よりも)「経済状況は有利な状態である」という趣旨を伝達している。実際に社会的背景を調べると、民主党と共和党で評価は分かれるものの、2019年の景気は比較的安定して良い状態であることがわかる。それゆえ、経済に対するカードメタファーは、その側面を強調する誇張法のはたらきがあると結論づけられる。

加えて、移民問題に関しては米国の歴史的・長期的な社会問題であることが再確認できた。このような状況下で、トランプは様々な政策 (表 5 を参照) を施しているが、その中でも特に国境強化を推進していることがわかった。確かに、国境を警備しなければ、不法移民や麻薬密輸者が侵入する。一方で、これらの政策によって移民は、家族と強制的に引き離される恐怖心を抱きながら生活し、そのストレスによって心身ともに健康を害する人も多くいる。移民拘留センターにおける人権、収容スペースなど課題は山積みであり、米国はその根本的問題を打破することができないジレンマに陥っていると解釈することができよう。

本稿は2019年6月4日のインタビューのカードメタファーに限定して分析したため、トランプのカードメタファーをすべて網羅しきれていない。今後はFactbase に収録されている残りのインタビューを調査し、米国の社会問題と照合した上で、カードメタファーを体系化していくことが課題である。

## 謝辞

本稿を執筆するにあたり、ご専門の視点からご助言・ご指摘を下さった同大学院の後藤秀貴氏に感謝申し上げる。

## 参考文献.

 $Boggs, C.\ (2018).\ Fascism\ Old\ and\ New:\ American\ Politics\ at\ the\ Crossroads.\ London:\ Routledge.$ 

Bremmer I. (2020, February 10). Trump's Middle East plan acknowledges Israel's primacy. Time, 15.

Ching, M. K. (1993). Games and Play: Pervasive Metaphors in American Life. *Metaphor and Symbolic Activity*, 8(1), 43-65. doi:10.1207/s15327868ms0801 3

Designated Survivor | Netflix Official Site. (n.d.). Retrieved from https://www.netflix.com/watch/80133832?trackId=200257859

English Language & Usage Stack Exchange. (n.d.). Retrieved from https://english.stackexchange.com Factbase. (n.d.). Retrieved from https://factba.se

Fleming, P. J., Novak, N. L., & Lopez, W. D. (2019). U.S. Immigration Law Enforcement Practices and Health Inequities. *American Journal of Preventive Medicine*, 57(6), 858-861. doi:10.1016/j.amepre.2019.07.019

外務省: 国別・地域別データ. (n.d.). Retrieved from

https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/data/index.html

Gallup, I. (2020, March 3). Trump Job Approval Rating at 47%. Retrieved from https://news.gallup.com/poll/287264/trump-job-approval-rating.aspx

Garcia, A. C. (2019). Bordering work in contemporary political discourse: The case of the US/Mexico border wall proposal. *Discourse & Society*, 30(6), 573-599. doi:10.1177/0957926519870048

Gilboa, E. (2017, November). Trump, One Year After the Election: Achievements and Failures. *Begin-Sadat Center for Strategic Studies*.

Harp, D. (2019). Gender in the 2016 US Presidential Election: Trump, Clinton, and Media Discourse. London: Routledge.

Immigration and Customs Enforcement. (2019, February 25). Retrieved from https://www.dhs.gov/topic/immigration-and-customs-enforcement

Mexico-United States border - Wikipedia. (n.d.). Retrieved March 29, 2020, from https://en.wikipedia.org/wiki/Mexico-United States border

村田晃嗣. (2019). 『大統領とハリウッド: アメリカ政治と映画の百年』東京, 中公新書.

岡山祐・西山隆行 (2019). 『アメリカの政治』東京, 弘文堂.

Pew Research Center. (2019, December 30). Retrieved from https://www.pewresearch.org

Pierce, S. (2019). *Immigration-related Policy Changes in the First Two Years of the Trump Administration*. MPI Migration Policy Institute.

高橋和夫. (2019). 『イラン vs トランプ』東京, ワニブックス.

東京財団政策研究所. (n.d.). Retrieved from https://www.tkfd.or.jp

U.S. Bureau of Economic Analysis (BEA). (n.d.). Retrieved from https://www.bea.gov

Van Dijk, T. A. (2006). Discourse and manipulation. *Discourse & Society*, 17(3), 359-383. doi:10.1177/0957926506060250

渡辺由佳里. (2020). 『ベストセラーで読み解く現代アメリカ』東京, 亜紀書房.

#### (辞書)

Allen, R. (2008). Allen's Dictionary of English Phrases. Penguin UK.

Gulland, D. M., & Hinds-Howell, D. (1994). The Penguin Dictionary of English Idioms. Penguin Books.

東信行・諏訪部仁 (1989). 『研究社-ロングマン イディオム英和辞典』東京, 研究社.

Oxford English Dictionary. Retrieved from https://www-oed-com.remote.library.osaka-u.ac.jp:8443